

# 解説特集「私の教育システム情報学マップ： 問いの体系化に向けて」

近藤 伸彦 (学会誌編集委員会幹事補佐)      田中 孝治 (学会誌編集委員会幹事)      山元 翔 (学会誌編集委員会幹事補佐)

村上 正行 (学会誌編集委員会副委員長)      瀬田 和久 (学会誌編集委員会委員長)

## 1. はじめに

教育システム情報学会 (JSiSE) は、2024 年に設立 50 周年を迎えます。これにともない、現在、50 周年記念事業としてさまざまな企画が進められています。

2 年前に柏原昭博会長が就任された際の基調講演で、問いの蓄積・体系化の重要性を説かれました。それを受け学会誌では「採録論文ハイライト」「受賞論文ハイライト」を企画し、論文中で取り扱う「問い」を著者に記載していただくようにしました<sup>(注1)</sup>。始まったばかりで十分な量の蓄積にはまだまだ至っていませんが、発展を続ける学問領域においては終わりを見ない取り組みともいえます。

そこで、採録論文の著者に限らず学会員のみなさまが解決に取り組む「問い」を広く共有知とすることを可能とする情報システムの仕組みを、50 周年記念事業の一環として構築するとともに、蓄積された問いを体系化することで教育システム情報学マップを作成することを計画しています。学際領域である教育システム情報学の価値を学会内外に示し、プレゼンスを高める意味合いを持つ重要な取り組みと位置づけています。

一方で、体系化の視点、軸は多様です。本解説特集の目的は、次代を担う若手研究者に、まずは自分が思う「私の教育システム情報学マップ」を検討していただくことで、問いを体系化するための視点や軸の手が

かりを得ることにあります。したがって、キーワードレベルであったり研究方法論レベルであったり粒度もまちまちであることを許容し、むしろ揃えることはせずに多様な視点から今後取り組むことが求められる予見的な問いを含め、完備性や完結性も気にせず、具体的なマップ案だけでなく問いの体系化やマップ作成に向けた予備的検討を含め、自由にご執筆いただくことにしました。それが、読者のみなさまが取り組む「問い」の位置づけを再考いただく機会となり、教育システム情報学コミュニティ全体としての問いの体系化の機運を高めることにつながれば幸いです。

## 2. 問いの体系化・マップ作成 WG

教育システム情報学マップを作成する企画は、2021 年 11 月より、本学会の設置するワーキンググループ (以下、WG) によるプロジェクトとして推進することとなりました。その最初の取り組みとして本解説特集を企画しており、本解説特集の執筆陣がすなわち本 WG のメンバーになっております。

プロジェクトの性質上、従事されている研究領域が多様でかつ、学会内外の諸活動でさまざまな役割を担っておられる若手研究者で WG メンバーが構成されています。近藤 (WG 長)、田中、山元をコアメンバーとし、あわせて 10 名が WG に属しています (次節の解説概要紹介によってメンバー紹介に代えさせていただきます)。

一方、本プロジェクトは、教育システム情報学およびその周辺領域に携わるあらゆるステークホルダーに

<sup>(注1)</sup> 各種「ハイライト」については、以下のサイトでもまとめて公開していますので是非ご覧ください。

<https://scrapbox.io/jsise-rq/>